

第1号議案—1

品質保証研究会 令和元年度活動報告

1. 活動状況

(1) 令和元年度の活動は、第29回通常総会で承認された活動計画に基づき展開し、所期の成果を収めることができた。

番号	項目	内 容		回数
1	総会	通常総会の開催		1回
2	品質保証研究会全体活動	会員相互間の啓発	特別講演会	1回
3			講演会	0回
			見学会	1回
4		会員の活動状況や、品質保証に関する情報交換	QASGニュースの発行 第97号～第98号	2回
5	定例研究会活動	グループ毎にテーマを定めての品質保証に関する調査・研究活動と会員への成果提供	第1グループ	4回
			第2グループ	4回
6	幹事会	上記諸活動の計画・推進または支援	幹事会の開催 第183回～第185回	3回

(2) 令和元年度品質保証研究会の活動実績を表1に示す。

2. 活動要約

令和元年度の活動要約を表2に示す。

表1 品質保証研究会 令和元年度活動計画兼実績

○・▽：計画 ●・▼：実績

項目		2019年(令和元年)						2020年(令和2年)						
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
全体活動	総会	第29回 6/4 ▼												第30回 ▽
	講演会	計画	特別講演会 ▼ 6/4						○----- (案内発送)	----- 第47回 ▽			○----- (案内発送)	特別講演会 ----- ▽ ⇒中止
		実績									第47回 ▽3/13 ⇒中止			
	見学会	計画				○----- (案内発送)	----- 第45回 ▽							
		実績							第45回 ▼1/31					
	QA SG ニュー ース	計画		○----- (依頼)	○----- (締切)	97号 ▽ (発行)		○----- (依頼)	○----- (締切)	98号 ▽ (発行)		○----- (依頼)	○----- (締切)	99号 ▽ (発行)
実績					97号 ▼								98号 ▼	
第1 グループ	計画		第1回 ▽ (定例研究会)		第2回 ▽ (定例研究会)		第3回 ▽ (定例研究会)			第4回 ▽ (定例研究会)		第5回 ▽ (定例研究会)		
	実績			第1回 8/9 ▼	第2回 9/17 ▼		第3回 ▼11/21 (定例研究会)		第4回 ▼1/14 (定例研究会)			第5回 ⇒中止		
第2 グループ	計画			第1回 ▽ (定例研究会)	第2回 ▽9/25 (定例研究会)		第3回 ▽ (定例研究会)			第4回 ▽ (定例研究会)		第5回 ▽4/10 (定例研究会)		
	実績		第1回 7/17 ▼		第2回 9/25 ▼		第3回 ▼11/19 (定例研究会)		第4回 ▼1/23 (定例研究会)			第5回 ⇒中止		
幹事会	計画			第183回 ▽		第184回 ▽				第185回 ▽		第186回 ▽ ⇒中止	第187回 ▽ ⇒中止	
	実績		第183回 7/26 ▼			第184回 10/24 ▼			第185回 ▼1/17					

表2 令和元年度 品質保証研究会 活動要約(1/2)

番号	項目		日時・場所等	参加人員	内容
1	総会	通常総会 第28回	令和元年6月4日(火) 学士会館 2階210号室	77名 (他、委任状40名)	(1)議案審議 ①平成31年度活動報告・決算案の承認 ②令和元年度活動計画・予算案の承認 (2)定例研究会活動状況報告、特別講演
2	講演会	特別講演	令和元年6月4日(火) 学士会館 2階210号室	50名	「自然災害の予測と防災～現状と人工知能技術の活用～」 アドバンスソフト株式会社研究顧問/東京大学名誉教授 井田喜明氏
		第47回講演会	令和元年3月13日(金) TKPスター貸会議室 茅場町 カンファレンスルーム7C	—	「ティール組織 基礎セッション」NOL株式会社代表取締役社長 吉原史郎氏 ⇒新型コロナウイルス感染予防のため中止
3	見学会	第45回見学会	令和2年1月31日(金) 伊那食品工業(株)	12名	施設/設備見学、丸山監査役によるご講演、意見交換など
4	QASG ニュースの発行		(1) 第97号 令和元年 10月 (2) 第98号 令和2年 5月		① 第29回通常総会報告 ② 第1・2グループ活動計画および活動報告 ③ 令和元年度役員紹介 ④ 第45回見学会記、他
5	定例研究会	第1グループ (リーダー：工藤竜太 会員)	<p>【研究テーマ】 『研究テーマ：品質システムの研究「原子力QMSのあるべき姿に関する研究 - 原子力セクタ規格の調査・検討」』</p> <p>【研究の内容】 昨年度までに検討を進めて来た結果で原子力QMSの骨格が出来上がったものと考えているが、今年度は、業界全体で構成する「大きなQMS」に影響するものとして変更管理や、規制庁の品管規則の特徴的な事項について検討を行った。</p> <p>1) 変更管理</p> <p>① PROSCIのADKARモデルの検討 変更は改善のために行うのだから、成功させるためにはどうすべきか、ということが重要であるという考え方であるADKARモデルの重視する納得感の重要性や、背景となる米国での取り組み状況などを含め、理解を深めた。</p> <p>② 変更管理枠組みの検討 変更の対象をハードとソフトに分けて変更管理の枠組みを検討し、管理の要諦となるキーワードの抽出を図った。</p> <p>③ 各社の現状・課題・取組みの調査 各社における変更管理の現状・課題・取組みについて検討結果を考慮して調査した。</p> <p>2) 構内企業を含む発電所のQMS構造について 一体となった取り組みをその目的を達成できるよう行うための仕掛けの検討のため、現状の構造について議論を行い、認識を深めた。</p> <p>3) 一般産業向け工業品の適用についての検討 規制庁の品管規則に含まれる一般作業用工業品の適用については、米国ほど厳密な運用は要求されないと言われている。現実的な対応を検討しているが、今年度は十分な時間をとることはできなかった。</p>		<p>定例研究会</p> <p>令和元年 8月 9日 令和元年 9月 17日 令和元年 11月 21日 令和2年 1月 14日</p> <p>(令和2年4月開催予定分は中止)</p>

表 2 平成 30 年度 品質保証研究会 活動要約(2/2)

番号	項目	内容
5	定例研究会 第 1 グループ (リーダー：工藤竜太 会員)	4) 品管規則パブコメ版の紹介 規制庁の公開した品管規則について、その概要と特筆すべき項目を確認し、今後の研究テーマについて検討した。
	第 2 グループ (リーダー：氏田博士 会員)	<p>【研究テーマ】 『研究テーマ：エラーマネジメントに関する調査研究』</p> <p>【研究の内容】 本年度は、MTO 文献調査検討および良好事例分析手法の確立とその適用に注力した活動を実施した。</p> <p>1) MTO 文献調査と内容分析と国内適用の研究 大規模複雑システムにおいては個々のシステムの脆弱性の特定は困難という理解がある。この解決のためには、Man, Technology, and Organization (MTO) という全体を考慮した取り組み (Systemic Approach) が必要であるという認識が IAEA などを中心に西欧において共有されている。MTO 関連の文献を収集・調査し、その内容を評価し、日本における M T O の位置付けをまとめるとともに各組織への適用性を検討した。</p> <p>2) 成功(良好)事例分析手法確立と分析適用 前年度分析した良好事例(3 事例)また過去に分析した組織事故分析(9 事例)さらに最近の事例を加えた改善事例を共通の分析シートに基づき再度統一的に分析し、横断的な比較検証から教訓を抽出した。その経験に基づき分析手法を確立した</p> <p>3) 福島事故の他プラントとの比較検討結果の分析 良好事例のみならず失敗事例も取り上げ、また良好事例分析の範囲を、福島第一と福島第二、東海第二と女川に対しても同様の分析を試み、4つのサイト的良好事例と失敗事例を総合的に比較分析し、リスク対策の在り方を検討した。また別の視点として、国、福島県、宮城県および茨城県の事故対応も比較分析した。さらに、対策としての米国の FLEX 手法や電力が提案している Phased Approach の有効性及び国や地方自治体の Phased Approach との関係性を検討した。</p> <p>本年度の良好事例分析活動に基づき、その成果を技術情報協会ハンドブック「ヒューマンファクタの実践」の1章に記述した。また、人間工学会東北支部研究会で議論した。</p>
6	幹事会	上記諸活動の計画・推進または支援のため、必要な都度、幹事会を開催した。 (幹事会：第 183 回～第 185 回の計 3 回開催)

定例研究会
 令和元年 7 月 17 日
 令和元年 9 月 25 日
 令和元年 11 月 19 日
 令和 2 年 1 月 23 日
 (令和 2 年 4 月開催予定分は中止)